

【表題】 小型機における非精密進入方式での CONTINUOUS DESCENT FINAL APPROACH の導入について 【調査報告】

【著者】 大村 大介

【発表】 航空大学校研究報告 R-66

【時期】 2013年11月

【概要】

我が国では、2006年7月7日に飛行方式設定基準が発行され、計器飛行による進入方式及びその他の飛行方式が新たに設定された。ここでは非精密進入方式（Non Precision Approach、以下 NPA）において、最終進入点（以下 FAF）からの方式高度及び降下勾配／パス角等が AIP INSTRUMENT APPROACH CHART へ記載された。

これまで計器進入方式のうち NPA においては、最低降下高度（以下 MDA）やステップダウンフィックス（以下 SDF）で一旦レベルオフして進入復行点（以下 MAPT）迄進入する方法（Step down Descent 又は Dive and Drive）が一般的に行われてきた。

しかしながら、新方式設定に伴い、従来の Step down Descent 又は Dive and Drive ではなく、Vertical Guidance 機能（FMS VNAV 機能）を持たない航空機も方式高度及び降下勾配／パス角等や DME 値を参考値として Continuous Descent Final Approach（連続降下による最終進入、以下 CDFA）を行う環境が整った。

さらに国際民間航空機関（International Civil Aviation Organization）を中心に、欧州航空安全局（European Aviation Safety Agency）及び Federal Aviation Administration（アメリカ連邦航空局）ともオペレーター側に CDFA を推奨している。現在、航空大学校仙台分校の多発・計器課程の訓練でも非精密進入方式において CDFA を導入しているが、小型機が CDFA を行った場合の有効性について説明する。